

平成29年度 第2回「三条市勤労青少年ホーム運営審議会」会議録

平成30年4月13日調製

1 日 時	平成30年3月20日（火） 午後2時開会
2 場 所	三条市勤労青少年ホーム 音楽室兼集会室
3 出席委員	小林会長、藤田副会長、村山、高橋、中川、高橋、坂田の各委員
4 欠席委員	柄澤、中嶋、山田、川上の各委員
5 説明のための出席者	佐藤館長、佐藤事務長、諸橋主任
6 所管課	片野商工課長補佐、五十嵐主任
7 傍聴者	一般社団法人新潟県労働者福祉協議会 東條事務局長
8 報道機関	三条新聞社
9 議事内容	(1) 平成29年度活動状況報告について (2) 平成30年度活動方針案及び事業計画について (3) その他
10 会議の経過及びその結果	
小林会長	これより今年度第2回の運営審議会を開会します。本日は第2回目ということで年度末にお集まりいただきましてありがとうございます。最初に佐藤館長よりあいさつをお願いします。
佐藤館長	新潟県労働者福祉協議会が三条市から委託を受けて丸4年になろうとしています。この間、審議会の皆さんからはいろんな課題を踏まえながら御意見をいただき改善すべきものは改善し、期待に応えてきたつもりでおります。今後もソレイユ三条の特色を生かしながら、さらに地域に開かれた施設として運営していきたいと考えておりますので、ぜひ忌憚のない御意見をいただきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。
小林会長	では議題の1、平成29年度活動状況報告を事務局の説明をお願いします。
佐藤事務長	資料2ページから7ページの活動状況について説明。
小林会長	ここで一旦区切って、皆さんから一通り、御意見御質問などいただきたいと思っております。
高橋（知）委員	啓発活動に触れられましたが、先日偶然にケーブルテレビを見ていましたら「さんさん三条」という番組の中で、事務長さんがインタビューを受けてまして、この講座一日体験イベントをお話されていて、その番組は何回か再放送されるので、いろんな講座がピックアップされていてとてもうれしく思いました。 それから運動系のピラティス、ヨガ、ズンバは前期と後期に分けて募集しましたが、人数が多いからそういう形になったのでしょうか。

佐藤事務長	先ほどの報告の中でちょっと触れましたけど、これらの講座は、年末あるいは冬に向かっていくにしたがって段々減っていく現状があります。前年度の例を挙げますとピラティスなどは後半の人数は一桁になってしまい、先生も寂しい思いをしたといった経緯を踏まえて、後半に再度募集することによって、新しい人が入り、また人数が増えるということがあるので、あえて半分に分けて募集をしております。
高橋（知）委員	それは人数調整でしょうか。前期受けた方も後期も重複で申し込みされるのでしょうか。
佐藤事務長	そうですね。
高橋（知）委員	それでは新しく入ってくる方は先着順なのでしょうか。それとも新規の方優先でしょうか。
佐藤事務長	今のところ先着順です。前期の募集の時に定員になってしまっていて入れず、キャンセル待ちになった方が、後期は早めに申し込もうという動きになって一番に申し込めば確実に入れる道ができたという一つのメリットとなっていると考えております。
小林会長	人気のあるコースなんですね。
高橋（秀）委員	意見というか要望になりますが、Facebook とツイッターについて 31 ページを見るとポスター・チラシが多いわけですが、これはイベントということもあるので日々の活動だと大きなシェアを占めるところなんじゃないかと思います。30 ページの資料を見ると、受講しない理由に 20 代の方が講座を知らなかったというのが非常に多くなっています。なので、今見てみると講座の告知やイベントの案内はされていますが、どういう講座なのか情報がないので、こんな講座をやっていますよというものをちょっとだけでも載せた方が周知という点ではいいと思いますし、ツイッターだと 10 代 20 代が多いので、来そうな講座をメインで押していく、また、Facebook では 30 代 40 代以降の人たちが受けたがるような講座を載せて役割分担していくと、もう少し来やすくなるのではないかという意見です。
佐藤事務長	もっともだと思います。いま動画が流行っていて全盛期みたいな形になっていますので、そういうものを発信できるといいなとは思っていますが、あとは手法等が課題だと思います。
高橋（秀）委員	動画というか、Facebook・ツイッターにこんな講座がありますよと小出しにしていってやれば、どんな講座があるか知らなかったという人が減るのではないかと思います。それによって、これから受けようと思う講座がツイッターだったら若い人、Facebook だったら僕らの年代 30 代以降という風に分けてあげれば、よりの的を絞った形で紹介できるんじゃないかなという意見です。
佐藤事務長	わかりました。

小林会長	僕らが思っている以上に、SNSの効果が大きいみたいですね。なかなかそういうのを活用しきれずにいるこの年代が議論していることが何か悩ましい感じがありますけど、若い事務員さんに丸投げされたらいかがでしょうか。
佐藤事務長	なんとか協力をしてもらいやっていきたいと思います。
坂田委員	けっこう定員を上回るような受講もあって、活発にされているような印象がしました。ソレイユだよりも以前もう少し字を少なくしてというお話をして随分読みやすくなったと思いますし、ソレイユだよりを見て来たという人はどれくらいいるのか。ソレイユだよりを見たという人には何か特典があればせつせと持って行ってくれると思います。積極的に持って行ってくれる工夫をしてみたらいかがでしょうか。 ソレイユだよりにFacebookの案内等はあるのでしょうか。
佐藤事務長	はい、載せています。
中川委員	教養講座とかサークルに参加されている方たちは、喜んで笑顔で来ていらっしやるのでしょうか。
佐藤事務長	はい。
中川委員	じゃあ、いいと思います。
村山委員	啓発活動が大事というお話がありましたけど、31ページのソレイユ祭のアンケートの中で、ソレイユ祭を何で知りましたかという設問で、ポスター・チラシで知った人が結構多かったのですが、若い方にはFacebook・ツイッターなどの媒体も必要だと思いますが、年配などそういうものが使えない方々にはポスターなどが効果的なのかなと感じました。
藤田副会長	サークル活動の中で、7月から花嫁修行がサークル活動としてスタートしていますが、どのような内容のサークルでしょうか。
佐藤事務長	最初はお弁当づくりからスタートしましたが、人数が少なかったためにサークルに移行しようかと花嫁修行という形で話がまとまりました。しかし、花嫁修行というからには料理ばかりではなく、デパートの店員を講師に品物の包装とか、アイロンのかけ方など家庭に必要なノウハウを勉強するメニューになっています。
藤田副会長	いい試みだと思います。親が教えればいいのですが、親がわからないことが多くなっていて、例えば風呂敷のくるみ方だとかペン字などやっていただければいいかなと思います。
小林会長	ありがとうございます。先ほど伺っていて気になったのが、サポステのトレーニングをやめられたというのは、この時期にやめようという予定があったのか、それとも何かがあってやめられたのですか。
佐藤事務長	そもそも通ってくる青年たちが少なくなってきたので、喫茶やランチを存続するために応援を頼まなくてはいけなくなり、昨年の夏ごろから過去に卒業した青

	<p>年を呼び寄せてなんとか維持してきたということを聞いております。サポステサイドで見ますと本末転倒であり、手が足りないということで、12月でやめさせていただきますと話がありました。</p>
佐藤館長	<p>利用させていただく側ですと、皆さんからは評判が良かったのでなんとかと思っていましたが、いま事務長も説明されたように、むしろサポステ側のほうの事情があつてどうしても回せないんだということで、申し訳ないと言われました。</p>
小林会長	<p>なかなかやめる決断というのは難しいことだと思いますが。</p> <p>もう一点、料理講習室が設備の欠陥があつたと言われておりましたが、他にも諸々劣化が問題になってくる時期かなと思いましたが、気になっているところがあれば、アピールしてもらって議事録に残るように聞かせてもらえればと思います。</p>
片野商工課長補佐	<p>先ほど佐藤事務長の説明にもありましたが、料理講習室については不具合が生じて工事を行って来て、現在ほぼほぼ完了しています。ようやく来週26日に検査があります。問題がなければ4月から再開ということになります。あとは築20年余が経過して、施設はどこもそうでしょうけど老朽化というか端々に不具合が生じて来ています。議会の最終日を待って公表という形になりますが、内々に予定しているものとして、市の責任で直接施工しないといけない部分としては、一つは、エレベーターの自動着床装置ですが、例えば地震など何かトラブルがあつた場合に途中関係ないところで緊急停止すると閉じ込めになりますので、停電しても上下どちらかの階に動いてから停止するという安全装置がございますが、この不具合がわかつたものですから大事なことなので優先して修繕させていただく予定が一点と、もう一点が、大分以前からだと思いますが我々の情報の入れ方が遅かつたかもしれません。実は多目的ホールの女子更衣室にありますシャワーが不具合で現在使えない状態になっています。実際使う頻度が少ないというのは言い訳になってしまいますが、これは施設として使うべきものとして、しっかり直させていただきたいと思っております。この二つは予算を付けて議会の承認を得た中でやっていきたい。</p> <p>それから、この冬天气候が荒れた中で除雪をして、雪解けになったら新たな不具合が露呈する箇所が少なからず出てきております。我々としては安全確保という意味で必要最低限修繕をしていかなければならないと考えておりますが、どうしても追っかけになってしまいます。本当は、予防的にできればいいのですが、不具合が生じてからの対策となりますが、この辺は指定管理者と情報交換をしながら改善に努めていきたいと考えております。</p>
小林会長	<p>ありがとうございます。それでは次年度案件に移っていきましょうか。説明をお願いします。</p>

佐藤事務長	資料8 ページから 15 ページまで活動方針案、事業計画案を説明。
小林会長	ありがとうございます。また皆さんから御意見いただきたいと思います。
村山委員	8 ページのアンケート結果のところ、講座を受講していない主な理由として、受けたい講座がないと回答する方が多かったとお話がありましたが、では、どのような講座があれば受講してもらえるのかというアンケートがあったのか少し気になりました。
佐藤事務長	アンケート資料の 28 ページになりますが、新たに受けようと思う講座として、現在ソレイユの講座にはないですが、こういった講座があれば受けてみたいというアンケートを実施しております。今回のアンケート結果は突出したものがなくて、ばらついてしまう結果になっております。新たに取り入れるには線が弱いかなと感じております。その中で例えば、ワードエクセル中級講座は、短期講座として取り入れておりますし、おもてなし料理は、花嫁修行の中で実施していく予定にしております。株の始め方講座など上位にありますので、今後講座の進め方や講師の選定などクリアできたら短期講座として検討していきたいと考えています。そのほか少数意見になりますが、その他欄の内容を御参照ください。
小林会長	なかなか悩ましいところですね。講座を開設してみたけれど人が集まらなかったりとか、その繰り返しみたいなものはありますからね。
佐藤事務長	実は昨年アンケートで、簡単お弁当づくり講座というものが大変人気があって、グラフもダントツになっていましたので、早速新たな講座として取り入れて、しかし、いざふたを開けてみると 4 人しか集まらなかった経緯がありますのでアンケートを全面的に信じることはどうかな、という慎重論になっています。結果についてはあくまでも参考にするというスタンスで考えております。
中川委員	まずもって前回の運営審議会での意見であった、子どもたちが青年期になってもソレイユを馴染みの施設として印象に残るような事業に取り組んでいただきましてありがとうございます。 話は変わりますが、この運営審議会の議題として挙がってくる事業というのは、ソレイユ運営協力委員会で協議されたものが挙がってくるものなのでしょうか。
佐藤事務長	ソレイユ運営協力員会で協議したものは 14 ページの④、ソレイユ運営協力委員会による青少年交流事業がありますが、ここだけになります。それ以外についてはこちらの事務局でほとんど企画しております。
中川委員	おそらくメインターゲットとされている層と、この運営審議会のメンバーに世代間格差があるので、メインターゲットのしたいことをアンケートではなく、講座やサークルのメンバーに直接聞いてみて講座等を考えて行った方がより近い年代のニーズがわかるのではないかと思います。正直、私たちが見てもどれ

	<p>がいいかどうかは判断できないし、おそらく感覚が違ってきていると思うので、そういう風にされたらいいのではないかと思います。</p>
佐藤事務長	<p>実は事業実施報告の中で 4 ページのソレイユ運営協力委員会定例会というのが年 10 回開催してございます。その中で、こちらからの情報提供ばかりでなく、ソレイユに対する意見とか要望など受けるようにはしていますが、この事業計画以外で意見が出ることはあまりない状況です。</p>
小林会長	<p>講座がどうのこうのという話にはなっていないですか。</p>
佐藤事務長	<p>そうですね。自分たちの受けている講座については特に不満等は感じていないという感触があります。ですので、それ以上という意見がないのかなと考えています。</p>
小林会長	<p>こんな講座があるといいなんて言ってしまうと、できたら行かなくてはいけなくなってしまいますからね。</p>
佐藤事務長	<p>皆さんがぜひと多くの意見があれば考えてもいいかなとは思いますが。</p>
佐藤館長	<p>それぞれが関わっている講座は、楽しんだり興味があって参加されていますが、横断的にあだこうだとは言にくいんでしょうけど。事務長が毎回の定例会には出ているので、何かしらヒントはあるにしてももう少し建設的に拾い上げるところまではなかなかいってないのじゃないかな。</p>
佐藤事務長	<p>そこでの主題が、例えば納涼祭の時、子どもたちを喜ばせるには具体的にどうやったらいいか、それで昨年はお化け屋敷をやろうという話になりました。また、ソレイユ祭に向けてどういうアーティストを呼ぶか、どういう構成にしたらいいかなどの意見は出ますが、講座そのものについて意見等は出ていない状況です。</p>
中川委員	<p>なるほど。例えば、いまどういったことが流行っているのとか、どういったことに興味があるのか雑談的なものでもいいと思いますが、自分が提案したと思われにくいような仕組みで、メインターゲットの考えているようなことを聞くということがないと講座がなんとなく昭和くさいように見えてしまうので。決して悪いわけではないですが、そんな感じを受けました。</p>
佐藤事務長	<p>なかなか 20 人とか揃うと自分の意見を出しにくい雰囲気になってしまいがちですが、12 月にグループ討議みたいなことをしたんですが、その時は活発に意見交換してましたので、終わった後、ソレイユ運営協力委員会の委員長と話をした中で、定例会もああいうグループで話ができれば理想だよねとしていたので、新年度は今ほどの御意見も参考にして、意見の出やすい形にしていきたいと考えております。</p>
小林会長	<p>30 人の運営委員のうち、平均で 20 人出席しているなんてすごく活発な委員会だなと感じたんですけど。</p>
佐藤事務長	<p>ここ 2、3 年で活発になってきましたね。</p>

小林会長	ぜひそんなテーマを投げかけて面白いグループ討議をやってもらえるといいかなと思います。
坂田委員	いくつかあります。間接的に婚活みたいな話は先ほど出ていましたが、経産省管轄でしょうか、婚活に対して積極的な話を聞きますが、ソレイユで例えば婚活パーティーやりますよというイベントはどうでしょうか。
佐藤事務長	今年度は地域経営課というところで婚活パーティー的なことを行ったようです。私は内部の人間ではないので結果はわかりませんが、そこが主催をしてやったようです。
坂田委員	むしろ婚活に出てくるよりは、実行委員会で知り合いになることが出会いの場としてもアリなのかなと昭和の人の考えなんですけれども。それともう一つは以前から子どもを連れて参加する場所はないんですかと話をしていましたけど、今回多目的ホールなどで子供向けの事業を組んでくださっているのので、比較的そういうのも増えてきたのかなとうれしく思っているのですが、例えばアンケートの受講しない理由として、子どもを見てくれる人がいないとか、子どもがいるからとかの選択肢としてないのかなと思っておりますが、その他理由で出てきませんでしたか。
佐藤事務長	その他の中の内容として、記述式になりますが、家から遠いとか若い人中心だからとか興味がないとかという理由がございました。
坂田委員	利用者 39 歳までとターゲットにしていると、小さい子供のいる方も多いのではないかと思います。毎回言っているんですが、子どもを連れて参加できるとか、一言お子さん連れでも参加できますよとかというキャッチフレーズがあってもいいのかなと思いますがいかがでしょうか。 託児までいかないにしても安全なものに関しては連れて参加できるとか。
佐藤事務長	私ばかりでなく皆さんも多分そうでしょうけど、子育ての時期って、親として子どものために何ができるか、子どもをどこかへ連れて行きたいとか子どものためにいろいろ考える時期だと思っています。ですから子どもを置いて何か趣味をしたいとかはブランクの時期でもあると思うし、自分自身やりたいことを殺して子育てに関わってきたと思っていますし、関わる時期だとも思っています。そんな中、三条市には子育て支援の拠点施設として、すまいるランド、それから「あそぼって」という施設が一ノ木戸小学校跡地にできていますが、そこへ行くといろいろ遊べる施設になっています。小さい子どもは豊富な遊具で安全に遊べますし、大人はお母さん同士おしゃべりをしたり友達ができたりするいい施設だなと思っています。ではソレイユでその辺を考えると異なるような障害があり、そういう面はそちらに任せの方がいいのかなと思います。申し訳ないですが、何でもかんでもソレイユでやる必要はないのかなという気持ちはあります。

小林会長	確かに、すみわけも必要だということでしょうか。
坂田委員	いくら子育ての時期とはいえ、母親としては学習したいとか文化的なものに関わりたいたいとかという気持ちを殺してというのは少しひっかかるので、可能なら託児を作ってというのは施設の構造上のこともありますから、無理のない範囲でなんですけど多少柔軟性が増えてもいいのかな。
佐藤館長	託児についても前回お話が出まして、現実的には難しいという判断をさせていただかざるを得ないんですけれども、もちろん子育て中の方ですとか、私どもの講座云々は月 3 回程度が基本になっておりますので、なんとかそれぞれがご都合付けていただいて、もちろん子育て世代の方でも講座に興味があって何かしら参加してもらうのは有難いんですけれども、託児所までの準備というものが残念ながら委員のおっしゃられた内容は十二分に理解はできるんですけれども、来ていただける方で対応していただいて、そういった世代の方も積極的に参加していただければと思います。
坂田委員	答えは置いといて、きょう、入口でフリーに使えるのは小中学生のみというので、今は外国の方はどうなんでしょうか。前は良くバスケットしたりだとかしていましたが、そういう人たちは入れない状況ですか、それとも利用料を払って利用している形ですか。
佐藤事務長	利用料を払って利用してもらっています。
小林会長	それは貸し切りになりますか。
佐藤事務長	そうですね。利用料を払った以上は貸し切りで使うことができます。フリーは小学生以下が自由に遊んでもらう決まりになっています。
高橋（秀）委員	先ほど中川委員がおっしゃったように運営協力委員会の皆様から意見をもらうのが一番いいのかなと思っていて、ちなみに何歳くらいの方がいらっしゃるのでしょうか。
佐藤事務長	イメージ的には若い人と捉えられていますが、実はそうではなくて、講座によってはある程度年配の人も含まれています。ですので、必ずしも 20 代 30 代ばかりではないので、中には 50 代 60 代の方もいらっしゃいます。 あと、講師の方は講師との打ち合わせ会議がありましてそこでまた来年度の講座だったり進め方だったりざくばらんに話をする機会がございます。講師の方は結構若い人との付き合いもありますので、そこでの話を吸い上げることもあります。
小林会長	じゃあ、年齢構成は幅広いという感じなんですか。20代から60代みたいな。
佐藤事務長	どちらかと言えば若い人が多いですね。
小林会長	佐藤事務長さんが言う若い人というのは、いくつくらいのことを指しているのですか。
佐藤事務長	若い基準ということですが、40歳で一つの線を引くと40歳未満の方が多いで



	すね。
高橋（秀）委員	<p>サークルの中には、もちろんいろんなサークルには10代や20代の方がいらっしゃるでしょうから、その団体の方たち用のアンケート、日頃何が困っているかというものでいいですが、お茶飲む場所がないとかなど日常感じていることなど抽出できれば、協力してもらえませんかと言って、メンバー分の紙を渡してもらって次来た時に書いて出してくださいと言って、それがちょっとでも分かれば事業内容に盛り込めるだろうし、盛り込まれているものだったら告知でこういうのができますよと言えると思うので、その辺をうまく使ってもらえるのではないかと思います。僕ら以外の世代というのは何を求めているのかわからないので、そこをうまく協力していただいたらどうかという意見です。</p>
佐藤事務長	<p>先ほどもグループ討議という形でざっくばらんに意見を出してもらおうという形も今後やっていこうかなと考えています。また、今ほどの意見にもありましたように、口には出しにくいけどメモに書く程度なら機会あるごとに今後取り入れていきたいと思います。</p>
高橋（知）	<p>二つ話をしたいと思います。なぜ講座を受講したのと運動系の方に聞いたことがあったんですが、その方は5歳くらいのお子さんがいらっしゃるって、やっぱり家のことばかりしていてもね、と言われて自分は家庭のことをいろいろやってきてももちろん犠牲も払ってやってきたけれど、本当に自分が外の世界とつながりたいと、ここへ来てみたら安いし、続けられるということのお話をされたことがあったので、坂田委員さんがおっしゃったように理想もこういう場で語っていかないと危険度はもちろんあると思うんですけど、いま美容室なんかもキッズルームありますというところも増えてきています。ちょっとスペースを区切って目の届く範囲でというのがあるので、子どもを連れて来られるなら連れてきたいという方もいらっしゃると思います。いまお話を聞いていて現実無理だとわかったんですけども、その辺が取っ払われたら使いやすく有意義で最高なんじゃないかなと思います。</p> <p>もう一つ、講座で花嫁修行というのがありますが、花婿はどうでしょうか。女性もそうですが男性もできたらとてもいい家庭ができそうだと思いますし、花婿になって大分経つ方でもいいと思いますが、どうでしょうか。まだまだできない方も大勢いらっしゃると思うので、その方たちからソレイユに来てもらうといいかなと思います。</p>
小林会長	<p>奥様目線で二点御意見いただきましたが。</p>
佐藤事務長	<p>理想の話はできることなら、ということであれば話としてできますが、現実問題危険度等を考えると今のところは他のいい施設がいっぱいあるので、そちらを使ってもらえればということは感じております。</p> <p>花嫁修行ですが、男の料理という名目で公民館や生涯学習関係でいろんなメ</p>

	<p>ニューがあつて、そことバッティングしたり、ないかもしれないですが引っ張り合いになつてもどうかと思つています。実は、花嫁修行という講座にしたのは受講生がある程度集まるという見込みがあつたので講座を開設した経緯があります。ですので、花婿修行が集まるかどうかはやってみないとわからない部分ですが、講師やいろいろな調整を行つたのに受講生が2, 3人だったら先生にも悪いし講座として成立しないことになってしまいます。</p>
小林会長	<p>花嫁・花婿修行がイコールのものというのが、御意見の考え方に近いのではないですか。花嫁修行とすると男の人が来ずらいでしょうから、花嫁・花婿修行とやっちゃったほうが男も来るかもしれない。</p>
佐藤事務長	<p>逆なんです。今の女性たちが嫌がるんです。女性だけでやりたいということです。</p>
小林会長	<p>いろいろなニーズがありますね。</p>
佐藤事務長	<p>女子会が流行っている、そういう部分でしょうか。男が入ると言いたいことが言えなかつたりするなど何かあるんでしょうけど。</p>
小林会長	<p>先ほどのキッズルームの話は、キッズルームですとポンと部屋を確保するだけでは何かあつた時に責任が取れないということで、誰かの目に届くところに作らなきゃいけないということで難しいという判断ですか。</p>
佐藤事務長	<p>そうですね。例えばこの部屋で講座をやつていてその一角を仕切つてというイメージですかね。</p>
佐藤館長	<p>私がイメージするのは、可能であればNPOだとかどなたかにそういうことをお願いすることが可能なのか、あるいは利用される皆さんがそういうものでいいよということをご了解いただけるのか。どうしても運営する側としては、市の施設を使いながら対応するということになる、当然安全面だとかそこを最優先に考えざるを得ませんので。</p>
小林会長	<p>お母さんの的にはどうなんですか。別にほつたらかしてもらつていいよと。</p>
高橋（知）委員	<p>そうですね。了承したうえで連れてくるみたいな形ですよ。目の届く範囲でほんとにその一角でいいですので、皆さんお子さんがいるわけではないので、連れてくると言つてもせいぜい数人だと思いますから、そこまでの大々的には考えなくても。</p>
坂田委員	<p>目の届くくらいの低い仕切りでもいいので。</p>
小林会長	<p>でも、英会話とかやつていて、ここでうるさくしていたら講座にならないみたいなことつてないんでしょうかね。</p>
高橋（知）委員	<p>私のイメージするのは、生け花やつていた時は立つてやるんですけど、もしそこに一角あつても自分だったらたぶんできると思つています。自分の子どもだから自然と気になりますが、子どもも見ながらなので講座にばかり夢中にならないですがなんとかできます。</p>

小林会長	逆に全然関係ない人が、なに子ども連れて来ているの、と思わないものかな。
高橋（知）委員	そこはあまり思わないと思います。そこにキッズルームとしてあれば。それが嫌ならやめていくなりすると思います。
小林会長	どっちを優先するかになりますね。
佐藤館長	会長がおっしゃられたことに関連して、高橋委員が言われたように自分ではできるだろうけど、きょうはこれを覚えようとか講座に一生懸命な人がそういう状況があった場合にどうなのかな。総体的に皆さんが気持ちよく利用していただくためにはと考えていますが、きょうは確かにいろんな御意見があつて、そうだなと思いつつも難しくてなかなか踏み込めないのが私どもとしての受け止め方ですよね。
高橋（秀）委員	未就学児のお子さんいる人限定にしちゃえば。集まるかどうかをアンケートを取って、確認してみたいかどうかわかるかチェックして、それで受けられない人がゼロだったものがもしかしたら10いるかもしれないし、そこに関しては全く取ってなかったところですし、何も開拓してない部分ですので結果いけるようだったらここの特徴というか、子どもがいるから受けられる講座という。
小林会長	その情報を子どもを持つ奥様方に数百人単位でアンケートがもし仮に取れば、でも取ったところで行きますとならないところがすごく悩ましいところかなと思いますね。
佐藤館長	それから受入れの体制がどういう整備ができるかどうかをお伝えして、そういうところであれば来られるよということですよ。今のようにそこにあればそれだけでいいという方と、堅い言い方ですが管理はどうするのというのも具体的になった上でということですよ。
高橋（知）委員	もし講座を受けたいという方が子どもをおんぶしていた場合、受けていいですかと言った場合はどういうお返事になりますか。
佐藤事務長	どうぞと言います。実際に茶道などは小さいお子さんを連れて来ていらっしゃると思います。そのほかの事例としては、講座じゃないですが、お楽しみサロンがありますが、ハンドメイドだったり羊毛フェルトだったりはお子さん連れで参加されていることもあります。そういう意味で全く排除しているわけではありません。子どもさんを自分の力で見られるのであれば、ソレイユとしてダメですってことはないです。
小林会長	ということは、今は何も記載していないということですか。NGでもないし、OKとも謳ってない。
佐藤事務長	そうですね。問い合わせがあった時にどうですかと聞かれたら大丈夫ですよとお答えしています。ただ、一時預かりはないので、自分の目の届く範囲で見ただけであればどうぞと伝えています。
小林会長	そこを一步踏み込んで、受入OKですよと謳ったほうがいいという御意見で

	したね。
坂田委員	利用者を増やすならそのほうが良いと思います。例えば空いている時間で子どもも連れて来られる英会話教室という、大人も勉強しながら子どもだって聞いていれば勉強になるじゃないですか。そういうので子どもが逆に育っちゃうケースもあると思いますが、それがソレイユの趣旨に合っているかどうかはわかりませんので、すぐにはできないと思いますが、プライベートスクールならそれが可能かなと思いますよね。
小林会長	であれば、1回試してみてもいいですよ。一つか二つのコースであえて。
坂田委員	スポット的にお試しでやってみるとかね。
小林会長	いきなり全部する必要はないですよ。チャレンジですけどね。 なかなかいいお話ができたと思います。では、藤田さん。
藤田副会長	私は視点が違うところでお聞きしたいですけれど、ホームの利用者の年齢層は20代以上30代40代が多いのと、30年度の三条市の施政方針の中でも高校の就職率が上がってきているのもありますが、その中で、Uターン促進でかなりの予算を取っている部分でですね、企業側にしてみるとありがたい部分で、一回県外へ出た大学生が戻ってきて優秀な人材を確保できることはありがたいんですが、なかなか県外に出て三条市にある魅力ある企業をほんとにPRできているのか、私の子どもも県外に出て就活時期になっているんですけども、その部分で予算を1,000万円も取って、どういう事業で若者をUターンさせようと策を講じているのかお聞きしたい。 県のほうは労働局主催でガイダンスやWEBを使ったりとか登録してくださいというのがありますが、三条市はあまり各企業に対して特にやっていないと思うのですが、Uターン組を誘致するのはどういう活動を表立ってやっているのかなと思まして。
片野商工課長補佐	まず、資料8ページの活動方針のところの2番のところですね。最初にちょっとだけ言い訳をさせていただくと、こちらの若者の移住に向けたシティセールスというのが実は商工課ではなくて営業戦略室になるんですね。新規鍛冶人材育成事業あるいは地場産業技術継承事業は商工課が所管しています。なので、Uターン促進事業の1,000万円超というのが具体的に何の事業かは認識不足で正確にお答えすることができないんですけども、ただ全体的には我々が取り組む新規鍛冶人材育成事業や地場産業技術継承事業はまさにここに書いてある通りで、若者の移住というのは実はハードルがかなり高く、まずは交流人口というかまずは興味関心を持っていただくということ。移住というとは基本的には今おっしゃった、高校を卒業して戻ってくるというより、新たに住んでもらうということを狙っての取組になるというものですから、移住となると理想はハードルが高いのでひとまずはシティセールという形で売り出して若者からこ

	<p>の燕三条地域にいかに関心を持っていただけるか取り組む中で、実際地元から東京に出ていた若者が客観的に地元を認識すると、故郷を見直すきっかけになると思います。なかなか一回出て行った若者に、単純に故郷だからとか家を継ぐとかで帰って来いというのはなかなか厳しいので、燕三条地域の魅力をさらに高めていく、外から見たときに非常に魅力的に見えるね、というところの評価を高めることによって結果的に三条っていいところなんだと再認識して戻ってきてくれるようなことを想定した事業となっていると思いますが、じゃあ具体的に何をやるのかというものはお答えできませんが、そういう方向性で営業戦略室では取り組んでいると認識をしています。</p> <p>商工課の二つの事業はピンポイントで育成していくもので、従来の地縁血縁以外でも後継者を見い出していくと息の長い取組になっております。これを民間で行うにはリスクが高いので、行政がやることで、最初は1人2人かも知れませんが、こうした取組を行うことでマスコミで発信をされたりしながらなんとか若者を全国規模で見い出して三条に来ていただいて、活動をしていただく多くの方の興味関心を引くことにつながると考えています。</p>
藤田副会長	長い目でやっていくということがわかりました。
中川委員	<p>そんなに難しい話ではなかったりして、私もつい最近知ったんですが、学生さんが仕事を探す時って、ハローワークさんで探すのかなと想像していたんですが、今の学生さんてリクナビとかマイナビとかそういうのを見るんですね。そこからこの地域で働きたいと思っていても、面倒だしなかなか探せないときに燕三条版のリクナビのようにこの地域の求人が一発でわかるようなサイトがあるとすごく有難いですという話を聞いたことがありました。確かにそういう風なものが無いんだと、情報が一発でわかるような、一社一社の企業情報を見なくても、そこを見ればどういったところがどんな求人をしているんだとわかるようなものがあるとすごくいいです、という意見がありました。</p>
藤田副会長	<p>その通りで、三条市でこういうサイトを作って、企業がそこに登録すると学生は絶対見ます。学生自体がそういう風にやるんです。大学でも学生にはリクナビとか登録しなさいと指示が出て自分で探しなさいとやっている大学が多くなってしまっていて、ここにまず載らないとハローワークさんの支援もなくなるので、今おっしゃったことをやってもらえれば、若者には目につく活動になると思いますので、市のほうも積極的に力を入れた方がいいかもしれません。</p>
片野商工課長補佐	<p>おっしゃるとおりです。実は私も抽象的なことしか言えなくて申し訳なかったんですが、一つだけ具体的なことを言うと、工場の祭典を5回くらいやっているわけですが、この5回のうち体験された若者が次の年に、工場の祭典に参加された事業所に募集していないか、直接問い合わせしているケースが数件あり、ある事業所ではそのうち一人を採用したという情報があります。偶然のことか</p>

	<p>もしもませんが、今言ったことを踏まえると、行政がこういう関係性を作ると可能性があるんだなあと改めて認識をしました。また持ち帰りしっかり検討してまいりたいと思います。</p>
小林会長	<p>はい、ありがとうございます。一通り昨年度の報告と次年度の計画について、言い足りないことはありますか。なさそうであれば一旦事務局に戻します。</p>
佐藤事務長	<p>会長ありがとうございました。毎度の話ですが、今回の会議録は会長と事務局で調製しまして後日ホームページに掲載したいと思います。</p>
小林会長	<p>はい、ありがとうございました。では以上で第2回の運営審議会を閉会させていただきます。</p>
	<p>閉会 午後3時35分</p>